



令和4年度災害廃棄物対策推進シンポジウム

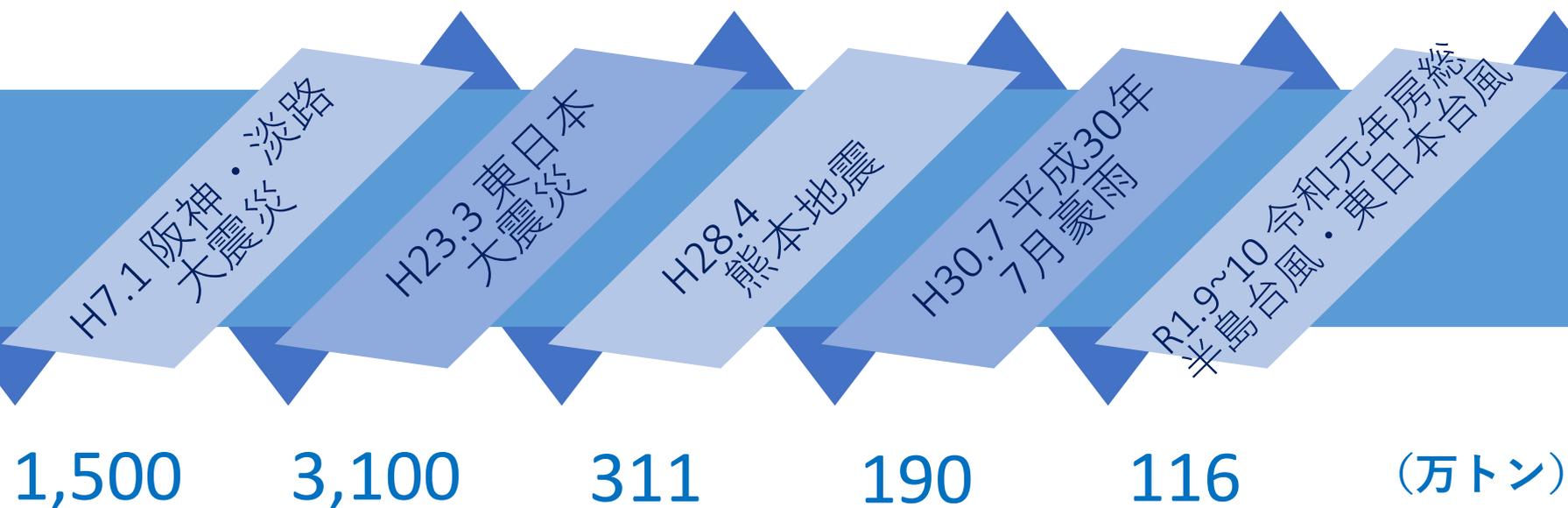
倉敷市における平時からの 災害廃棄物処理体制の 整備について

倉敷市 環境リサイクル局

リサイクル推進部 一般廃棄物対策課

大瀧慎也

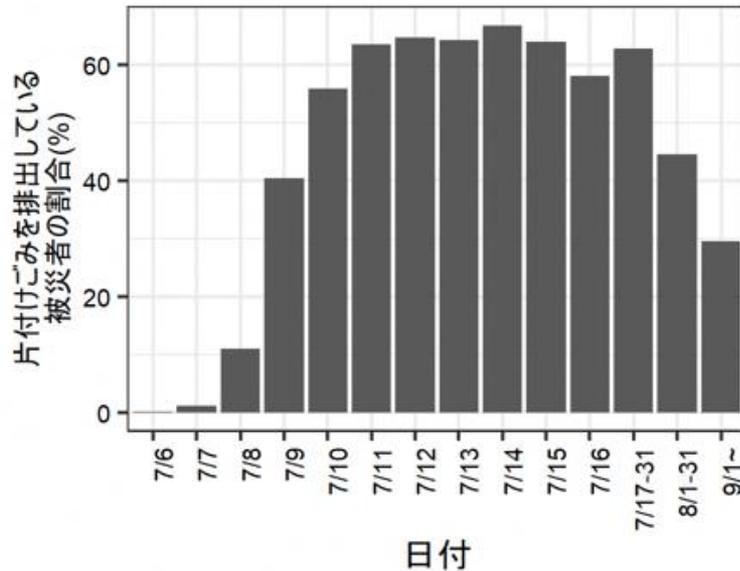
近年の大規模災害における災害廃棄物の発生量



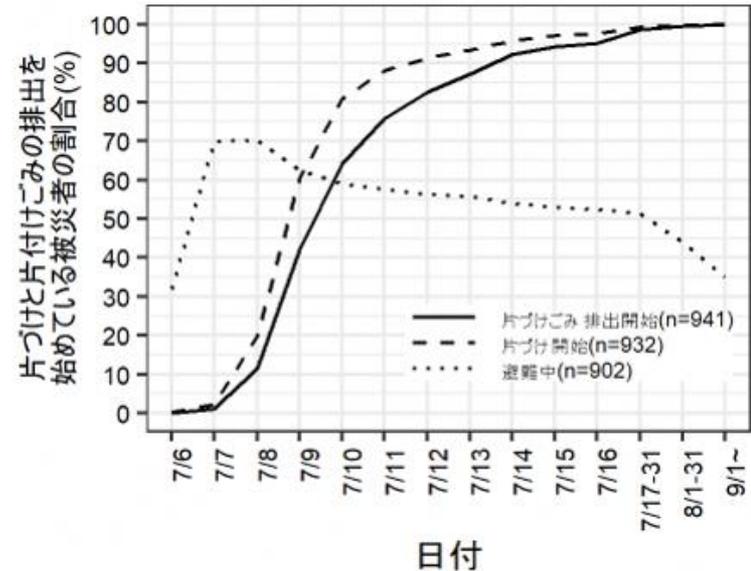
災害廃棄物の発生に対する知見

危機が過ぎ去ったあと、比較的被害の小さかったところから
順次ごみの排出が始まる → 初動のスピード化が必須となる

被災者によるごみ出しの実態



片付けごみを排出している被災者の割合 (%)



片付けと片付けごみの排出を始めている被災者の割合 (%)

(出典：片付けごみを仮置場以外で排出する要因の検討
多島良 森嶋順子 廃棄物資源循環学会誌 Vol32 P35)

- 水が引き始めた7月8日の3日後の7月11日時点では、約75%の被災者が片付けごみの排出を開始していた。
- ➔ つまり、水が引き始めてから概ね3日後には、早くも排出のピークを迎える傾向がある。



片付けごみが排出された真備町内の国道

市町村が抱える3つの課題

①見えない先への恐怖

災害を知らない

→パニック・混乱

②限られた資源(ヒト)

人を集められない

リーダーがない

→判断の遅れ

③限られた資源(モノ)

物が準備できない

発注や買い出しへの手間

→行動の遅れ

倉敷市の取組み①

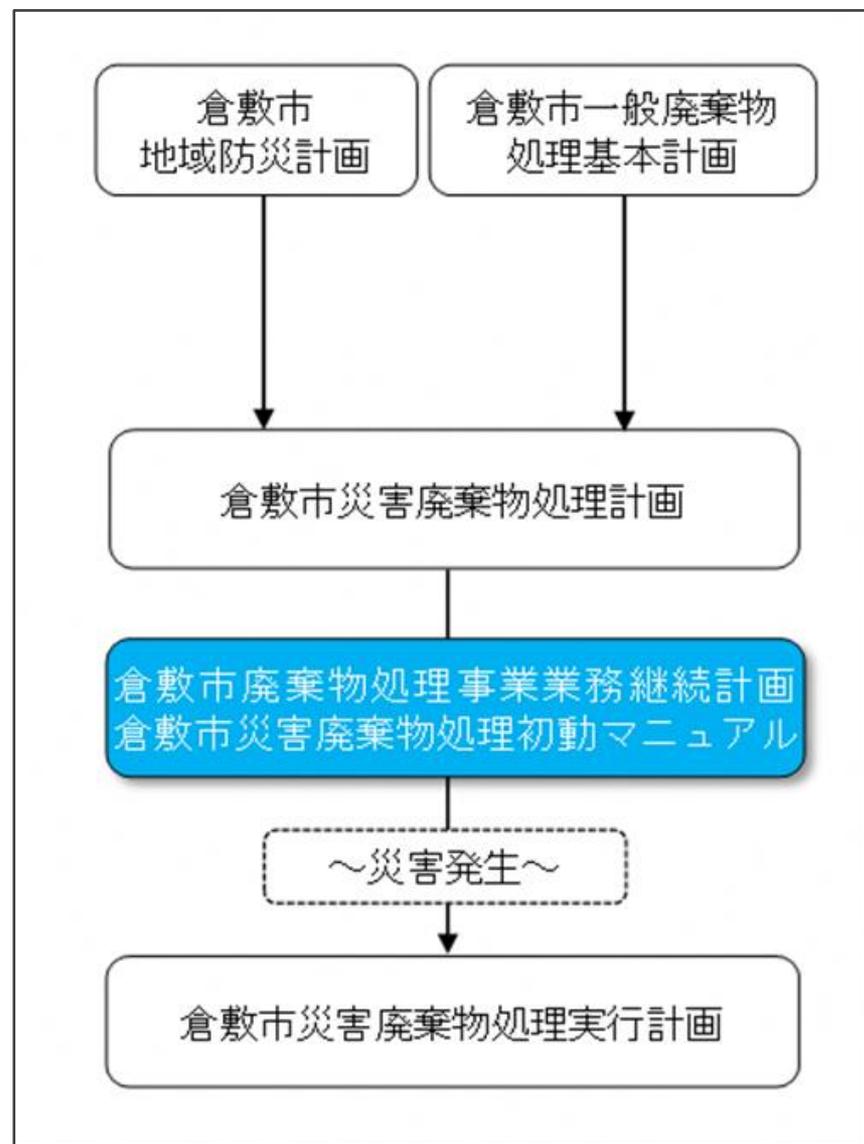
災害廃棄物処理に係る計画等の体系の整理

■倉敷市災害廃棄物処理計画の改定（R3.3）

- 被災及び災害廃棄物処理事業の知見を踏まえ
災害廃棄物処理体制を再構築する



倉敷市災害廃棄物処理計画



計画改定で行った 初動体制の再構築

倉敷市廃棄物処理業務継続計画（BCP）

→ 平時から災害時優先業務の選定を行い、大規模災害発生時には制約された人材をそれらの業務に効率的に投入し、災害廃棄物処理の実効性を確保する。

倉敷市災害廃棄物処理初動マニュアル

→ 大規模な災害が発生した場合に、官民連携による適正かつ迅速な廃棄物の処理を行うため、平時から初動対応の役割・手順等を取りまとめたマニュアルを作成する。

Step 1

緊急業務以外を一時的に停止

Step 2

部内の人員を確保

Step 3

災害廃棄物処理の各業務のリーダーとして配置

Step 4

民間企業・ボランティア団体等を招集

Step 5

災害廃棄物処理業務を役割ごとに開始

中長期にわたる対応を見据えた受援のイメージ + 倉敷市が構築する初動時の地域連携体制

市独自の連携体制

03

地域内における連携体制の構築
(倉敷市SDGs
災害廃棄物処理官民連携事業)

自治体間による支援

02

災害マネジメント総括支援員
(対口支援：短期応援職員)
全国市長会／中核市市長会相互応援協定
(中長期派遣)
岡山県及び県内各市町村の災害時応援協定

環境省関連の支援

01

災害廃棄物処理支援ネットワーク (D-Waste-Net)
全国都市清掃会議による支援
災害廃棄物処理支援員制度 (人材バンク)
災害廃棄物対策ブロック協議会の支援

倉敷市の取組み②

倉敷市SDGs災害廃棄物処理官民連携事業

■SDGs 災害廃棄物処理官民連携事業とは

→官民連携によるしなやかな災害廃棄物処理体制を構築し、円滑・迅速な初動対応の開始を図る



市町村が抱える3つの課題

- ①見えない先への恐怖
- ②限られた資源(ヒト)
- ③限られた資源(モノ)

災害を知らない →パニック・混乱
 人を集められない リーダーがない
 物が準備できない 発注や買い出しへの手間
 →判断の遅れ →行動の遅れ

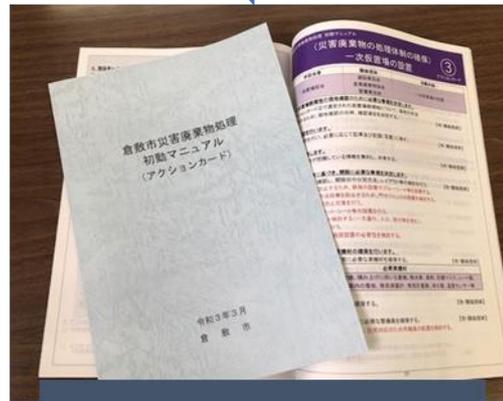
Kurashiki City

3

スライドP3の課題克服への取組み



ハンドブック



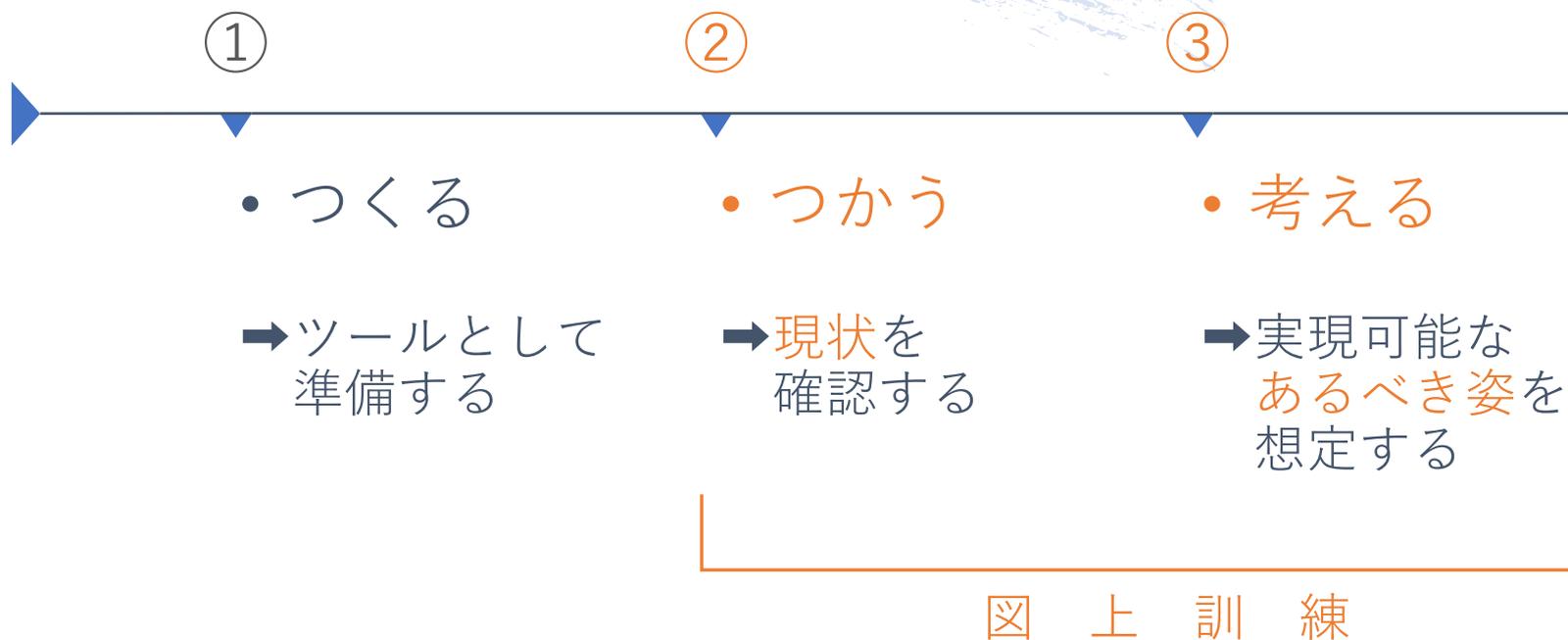
初動マニュアル



分別看板

→被害・行動の見える化 →ヒトの確保と行動のしくみ化 →モノの事前準備

「しくみ化」を**実践**してみる ～**問題**を発見し、**解決策**を探る～



倉敷市の取組み③

災害廃棄物処理 図上訓練

■図上訓練の目的

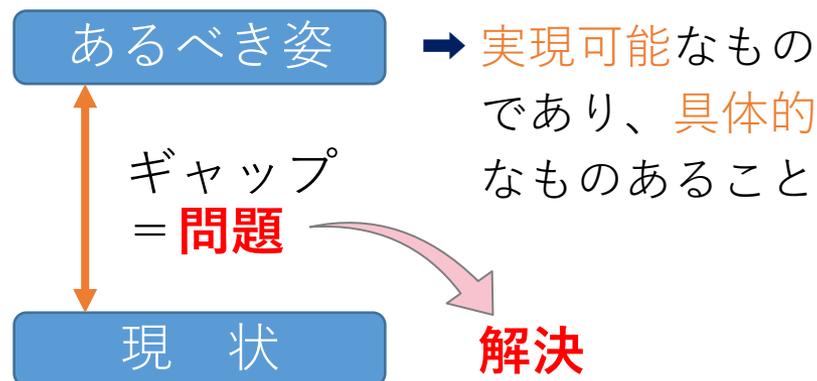
- 初動マニュアルにおける役割を確認し
実現可能なありべき姿を想定する



民間企業との図上訓練の様子



ボランティア団体等との図上訓練の様子



- ・「問題」と思っていることは立場により異なる
- ・共通認識とすることがネットワーク化への第一歩

ネットワーク化のための3つのステップ ～つながり・やくわり・むすびつき～

被災自治体だけでは災害廃棄物処理は
できない

外に向かって支援を求めることで
はじめて処理体制の展望が見えてくる

つながり



詳しくはこちら

国立研究開発法人 国立環境研究所



災害廃棄物情報プラットフォーム
PLATFORM OF DISASTER WASTE INFORMATION

01

やくわり

02

03

むすびつき

つながりができることによって、
経験や強みを活かしたやくわり
が生まれる

やくわりが生まれることによっ
て、目的意識が芽生える

参加者が共通の目的を持って
連携しあうことこそが
「災害に強い地域」への
第一歩となる

ご清聴ありがとうございました